

OB 通信

# 鳳 翮

= 2024年 8月号 =



【陶芸の村広場展望台から萩市街地と指月山を臨む（2025年OB総会候補地）】

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会

鳳翮会

# もくじ

			ページ
1	会長挨拶	鳳翔会会長 田村 伊正	1
2	2024年度総会（東京）開催のご案内	東京支部 支部長 城戸 賢嗣	2
3	支部報告		
	東京支部 活動報告	東京支部 事務局長 秋山 高弘	5
	九州支部 活動報告	九州支部 支部長 堀 剛	7
	山口支部 活動報告	山口支部 支部長 坂田 信一	8
4	現役報告	鳳翔会事務局長 経4年 木村 幸誠	10
5	エッセイ		
	上高地「河童橋」の徘徊	九州支部 S41 文理 加藤 征治	11
	びわ袋一年生	九州支部 S60 農 池田 徳子	12
	故石松宏紀氏を偲ぶ	九州支部 S41 文理 加藤 征治	13
	懐かしの船釣り	東京支部 S47 文理 恵谷 浩	14
	最近中国事情 中国西安に旅行して	東京支部 S47 工 福永 俊美	15
	本の出版	山口支部 S52 経 古谷 眞之助	17
	夏の日、竹下夢二展を楽しむ	東京支部 S50 経 塩塚 保	18
	青春放浪 - 1975年2月・3月 ヨーロッパ人旅 -	山口支部 S49 教育 石川 忠	19
	石松さん追悼	九州支部 S45 経 武富（伊藤）敏夫	20
	徐福さんと筑後川昇開橋	九州支部 S45 経 武富（伊藤）敏夫	21
	山口県最高峰 寂地山	関西支部 S48 経 上田 功	22
6	近況報告		
	近況報告	関西支部 S51 工 池田 純	23
	四国・徳島県の観光と遍路の旅	東京支部 S47 文理 恵谷 浩	24
	絶滅の危機にあるチョウ、「ヒョウモンモドキ」	九州支部 S45 経 武富（伊藤）敏夫	25
	シジウカラがやってきました！	山口支部 S52 経 古谷 眞之助	27
	健康維持の取組み（と、半生を振り返って・・・）	九州支部 S59 農 大田 剛	28
7	OBの皆さまへのお願い		30
8	2024年度本部・支部役員連絡先		31
	編集後記		31

## 1. 会長挨拶

鳳翔会 会長 S53年 工学部卒 田村伊正

今年も気候変動の影響ともいわれる想定外の豪雨災害や猛暑による熱中症が全国で発生していますが、鳳翔会の皆様にお変わりなくご健勝のことと存じます。また、常日頃より鳳翔会の運営に関しまして温かいご理解とご支援を頂き賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の総会では、関西支部のおもてなしにより盛会の中、会員の懇親を深めることが出来ました。改めて、ご参会の会員の皆様に感謝申し上げます。

今年の総会は、東京都青梅市の清流の宿「おくたま路」を会場として、東京支部の城戸支部長を初め支部の皆様により企画ご準備頂いています。様々な交流機会を喪失した新型コロナの感染禍を経て、九州支部の皆様のご尽力による対面総会の再開、関西支部の皆様による組織力の弱体化を克服しての総会開催、そして、会員への負担軽減を新たな課題として挑戦して下さっている東京支部へと、OB会の歴史を繋ぐことが出来ることに感謝は絶えません。会員の皆様には、東京支部で開催されます総会・懇親会に、是非ご参加いただけますようお願い致します。

OB会の主要な活動でもあります現役部員への支援と交流も、本部と山口支部が協力して取り組む中で、漸く取り戻すことができまいりました。アフターコロナに伴い大学の規制も無くなり、一時は消滅の危機も懸念されましたが、クラブ員数も増加傾向にあり、活動も活発になってきております。心配された夏合宿の活動も充実してきているようです。また、現役クラブより山口支部の木山克彦さんから山行グッズを頂いたお礼もいただいております。会員皆様におかれましても、現役との交流機会を思いつかれることがありましたら、本部にお問い合わせを頂ければと存じます。OBと現役との多様な交流がますます盛んになることを願うばかりです。

会員の皆様には健康に気を付けて頂き、夏山を楽しみながら元気に過ごされますようお願い申し上げます。

最後に、山口大学ワンダーフォーゲル部の創設から今日のOB会の発展に尽くしてこられ、私どもが敬愛してやまない石松宏紀（S42年農卒）先輩の訃報に接し、心よりご冥福を申し上げます。

## 2. 2024年度総会（東京）開催のご案内

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会会員 各位

2024年8月吉日  
東京支部長 城戸賢嗣

### 2024年度 OB 総会開催のご案内

拝啓 盛夏の候 OB 会会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。  
昨年総会での予告通り、2024年度のOB 総会は東京支部の担当で開催します。  
東京支部では過去に、筑波山、高尾山、大山等で総会を開催して参りましたが、今回は奥多摩を舞台に「清流の宿 おくたま路」を貸切りの平日開催（金・土）とさせていただくことにしました。  
解散後の土・日を利用して、東京を満喫していただくのはいかがでしょうか。またエンジョイプランも御岳山登山、御岳溪谷散策を楽しんでいただけるようご用意してお待ちしています。秋の一夜懐かしい仲間で気兼ねなく語り明かしませんか？ どうか皆様には奮ってのご参加の程お願い申し上げます。

敬具

※出欠連絡 同封のはがきを9月20日(金)までにお出し下さい。  
尚、宿より参加の皆様の食品アレルギーの有無を聞かれておりますので、該当される方は、はがき余白にご記載ください。

### 記

- 開催日時 2024年10月25日（金）～26日（土）  
受付開始 15時  
  
開催場所 「清流の宿 おくたま路」 <https://www.tokyo-okutamaji.jp/>  
東京都青梅市二俣尾2-371 TEL0428-78-9711  
JR 青梅線 石神前駅 徒歩10分（JR 東京駅から約100分）
- 参加費 約 @18,000円（一泊朝食付き+懇親会費含む）  
貸切りプランですので、**会費は参加人数により変動**しますがご容赦ください。  
参加費を安く抑えるためにも、多くのご参加をお待ちしております。
- スケジュール  
受付開始 15時～（お部屋や天然温泉でゆっくりお寛ぎください）  
総会 17時～（終了後 写真撮影）  
懇親会 18時～（レストラン、20時 中締め）  
二次会 20時～22時頃 終了（会議室にて）  
朝食 7時半と8時の2部制（受付時お聞きします）  
チェックアウト 10時
- エンジョイプラン  
できるだけ軽量のリュックサック等でご参加ください！御岳山登山・御岳溪谷散策ガイドは、OB会HPをご覧ください。

## 10月25日(金)

Aプラン 御岳山(929m)登山(ケーブルカー利用)プラン 雨天時は溪流散策に変更  
JR青梅線 御嶽駅12:00着の電車でお越しください。係がお待ちします。  
バスとケーブル往復で1,880円かかります。(ICカード利用可)  
ケーブルを降りて、山頂(御嶽神社)まで約30分参道を登ります。  
昼食を済ませるか、行動食を持ってお越しください。  
16時ごろにホテルに到着します。

Bプラン 御岳渓谷散策プラン 雨天決行  
ほとんど起伏のない約30~40分の散策、足に自信のない人もOK!  
JR青梅線 御嶽駅13:31着の電車でお越しください。係がお待ちします。  
眺めの良い溪流沿いの道をハイキングし、造り酒屋の澤乃井園清流ガーデンに  
立ち寄ります(ちょっと一杯)。15:20頃にホテルに到着予定です。

## 10月26日(土)

Cプラン 御岳山登山プラン(バスは利用しますが自力で登ります) 雨天中止  
ICカード(バス代往復680円)と行動食を持参ください。途中店はありません。  
ホテルロビー集合8:30 朝食をしっかりと済ませてお集まりください。  
JR石神前⇒JR御嶽駅⇒御岳山(御嶽神社)⇒JR御嶽駅  
JR青梅線 御嶽駅到着後解散14:00頃を予定。

Dプラン 御岳渓谷散策プラン 雨天決行  
ホテルロビー集合9:30 朝食を済ませお集まりください。  
JR石神前⇒JR御嶽駅⇒溪流散策⇒澤乃井園清流ガーデンで解散11時頃  
澤乃井では飲酒・食事が可能、また最寄りのJR沢井駅までは約15分です。

5. 連絡先 東京支部長 城戸賢嗣 (携帯電話090-5497-2320)  
事務局 秋山高弘 メール:akiyamat231@gmail.com  
(携帯電話090-7494-0869)

## 6. 参考情報

エンジョイプラン・宿へのアクセス

宿:JR青梅線 石神前駅下車 徒歩10分 案内図はOB会HPをご覧ください。

東京駅からJR中央線、JR青梅線を乗り継いで石神前駅まで約100分です。

【アクセス例】

※ダイヤ改正の可能性もあり、必ずご自身で検索確認してください。

(1) エンジョイプランA 御嶽駅12:00着

東京駅10:20発—JR中央線 青梅特快—11:33着青梅駅11:42発—12:00着御嶽駅

(2) エンジョイプランB 御嶽駅13:31着

① 東京駅11:43発—JR中央線青梅快速—13:12着 青梅駅13:14発—13:31着御嶽駅

② 東京駅11:54発—JR中央特快 12:36着 立川駅12:42発—13:12着 青梅駅  
13:14発—13:31着御嶽駅

(3) 直接「清流の宿 おくたま路」へ来られる方 石神前駅 15時ごろ着

- ① 東京駅 13:10 発—JR中央 青梅快速—14:35 着 青梅駅 14:40 発—14:46 着石神前駅
- ② 東京駅 14:04 発—JR中央特快 14:44 着立川駅 14:51 発—JR青梅線—15:20 着  
青梅駅 15:22 発—15:29 着 石神前駅

以上

返信用はがき

(表)

〒162-0842

東京都新宿区市谷砂土原町2丁目1-4-317

秋山 高弘 行

(OB会 東京支部事務局)

(裏)

2024年度 YUWV OB 総会出欠届

日時：2024年10月25日(金)～10月26日(土)

会場：清流の宿 おくたま路

【お願い】

お名前・ご住所等を記入いただき、出・欠及び参加プランに  
O印を付け、9月20日(金)までにお出し下さい。

(1) 総会・懇親会・宿泊 どちらかにO印(出・欠)

(2) エンジョイプラン 参加したいプランにO印

10月25日(金) Aプラン(御岳山登山) ( )

Bプラン(御岳渓谷散策) ( )

10月26日(土) Cプラン(御岳山登山) ( )

Dプラン(御岳渓谷散策) ( )

お名前：

( 年卒)

携帯番号(当日連絡用)：

食品アレルギー等連絡事項：

### 3. 支部報告

東京支部 活動報告

東京支部 事務局長 秋山高弘

2024年12月2日

高水三山登山 14名参加

青梅線 軍畑駅——高水三山——澤乃井ガーデン——沢井駅（解散）

総会の下見を兼ねて高水三山に登りました。思ったよりきつかったですが、澤乃井ガーデンでゆっくり飲むことが出来ました。松永氏の日本百名山踏破のお祝いをしました。



2024年2月3日

新年会 於：虎連坊 八重洲店 参加者20名

乾杯の後、皆で秋の総会の打ち合わせを簡単に行いました。そのあとは和気あいあい、盛り上がりました。

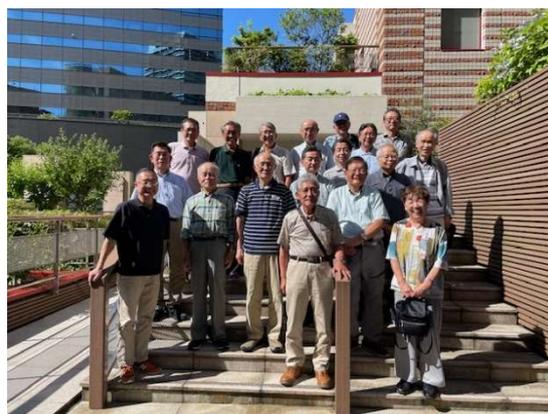


2024年6月16日(日) 13時~15時

暑気払い 参加者18名

日曜日でしたが、中華料理を囲んで、飲み放題のビールやサワーを昼呑みで楽しみました。

それに先立ち、11時から近隣の会議室に、秋の総会の担当者(係をお願いした方々)11名に集まっていた  
だき、総会へ向けての打ち合わせを行いました。通常の会議室が予約できず、「調理実習室」での打ち合わせ



となりました。(写真参照)

東京支部では、現在秋の総会に向け準備を進めています。

皆さんぜひお越しください。奥多摩の温泉宿を貸し切りで押さえました。

他のお客様に気兼ねすることなく、大いに 歌い、語り合い、そして飲みましょう。お待ちしております！

以上

★2023年12月9日(土) 忘年会

★出席者10名：永沼、武富、龍、木下、山本、弟子丸、前田、富田、天野、堀

いつもの大名つつじ庵にて。このお店はウイスキー派、ワイン派、焼酎派、日本酒派、なんでも派、酒好きならどなたも満足できるお店です。出席者より2024年1月より支部長が交代する旨を承認いただき(もちろん酔っぱらう前に)、後日九州支部の会員のみなさんに連絡いたしました。

★2024年2月3日(土) 新年会

★出席者13名：永沼、前原、龍、山本、弟子丸、桑江、権藤、大田、光山、天野、富田、堀夫妻



これまた大名つつじ庵にて。能登地震、羽田空港事故等、波乱の幕開けとなった2024年。その約一月後の開催となりましたが、どんな年になるのやらと思いつつ、2024年度活動計画について意見を交わすなどいたしました。

★2024年3月30日(土) 日帰り山行 河童山～羽金山 (ツクシヨウジョウバカマ観賞ハイキング)

★出席者7名：永沼、龍、木下、桑江、前田、大田、堀



羽金山は山頂に日本標準時や日本標準周波数を全国に送る地上200mの電波塔が立つ山で、ピンポンを押して山頂に行く許可を得ることが必要な珍しい山です(にもかかわらず意外に眺望の良い山頂です)。

山頂に行くと職員さんが待っていて代表者が名前等を記入する必要があります。この職員さんに記念写真の撮影をお願いすると快く引き受けて下さり、シャッターを押す寸前に「笑顔が足りません！」とご指摘いただきました(笑)。ツクシヨウジョウバカマは見事な群生で多くの人を訪れていました。

★2024年4月13日(土) 懇親会

★出席者9名：永沼、龍、山本、弟子丸、前田、大田、富田、天野、堀

はたまた大名つつじ庵にて。これまでの活動報告、今後の活動計画の意見交換は底々によく呑みました。

★2024年5月18日(土) 日帰り山行 貝殻山～周防台 (平尾台南部周遊。好展望の尾根道ハイク。)



★出席者8名：龍、前原、北原、前田、大田、富田、堀夫妻

好天と好展望の一日でした。プチ急登、清流と竹林が気持ちの良いトラバース道、その後好展望の尾根道をアップダウンしながら周防台(609m)を目指しました。上空にハングライダーがフワフワと飛んでいるのを眺めつつ。周防灘や由布岳を眺めながらの尾根歩きは、まるでここが立山ではないかの錯覚も! 大げさですかね。ホオジロやヒバリが盛んに鳴いていました。

九州支部長を拝命し半年、自分の想定より健全な(?)活動ができてると甘〜い自己評価をしています。如何でしょうか?

# 山口支部活動報告

山口支部 支部長 坂田信一

## 1. 2023年12月23日 OB 通信送付作業

出席者 10名：田中 (S47 農)、田村 (S53 工)、三國 (S55 工)、田原 (S57 工)、坂田 (S57 理)、日野 (S58 経)、平野 (S59 経)、齋藤 (S60 農)、川地 (H26 農)、木村 (現役)  
場所 山口市 ぱるとぴあ山口 (防長青年館)

これまで、OB 通信の送付作業を支部活動と捉えることを忘れていました。すみません。これは、まぎれもなく OB 会を支える山口支部の活動です。もしかしたら、この作業は本部活動？山口支部活動？と思う人がいるかも知れません。山口の場合、本部と支部は、ほぼ一体なのです。事実、山口には本部しかない時期が長くありました。

さて、12月23日、いつもの、「やまぐち県民活動支援センター」に集合して送付作業を行いました。送付作業は本部が作成した OB 通信、振込用紙、会費納付依頼等を、各会員の状況に合わせて封筒に詰め、住所氏名の宛名シールを張り、封をします。単純のように入れ間違えないか神経を使う作業です。約 250 部の作製作業が終わると、段ボールに詰めて、郵便局へ持って行き、送料を払って発送作業が終わります。山口支部のあまり見えない活動です。



## 2. 2024年3月5日 支部・本部会議 (25年総会について)、追いコン参加

出席者 5名：田中 (S47 農)、古谷 (S52 経)、田村 (S53 工)、三國 (S55 工)、坂田 (S57 理)  
場所 山口市 湯田温泉「悠遊」  
(この日の支部・本部会議、及び追いコンに関しては、三國副会長が報告を書িয়েくれました。)

コロナ渦で 2020 年から中止されてきた追いコンが 5 年ぶりに開催されました。山口支部では支部・本部会議を実施後、追いコンに合流し、卒部生および現役生を激励しました。

例年のように別室で一足早く支部本部会議を開始しました。近況報告、役員会の日程調整が議題ですが今回の大きな議題は来年の総会の引き受けに対し、活動を開始しなければいけない時期にきており、実行委員長を誰にするかということになり、坂田支部長にお願いすることとなりました。その後いくつかの案を出し合い、追いコン卒部式会場へと移動しました。



花束とお酒が例年の差し入れでしたが今年は人数も少なくコロナ渦の記念品と同じく記念品を授与するこ

としました。会場は平日ということもあり、参加人数は20名弱と少なめでしたがおおいに盛り上がりました。（参加予定の県立大生も人数がそろわず不参加となったようです。）卒部生は5名と少なく、ここ最近では一番少ない人数です。一人は山口に就職ということで今後大きな期待が寄せられました。1名は工学部でマスターとなり、在学となります。今後の彼らの活躍に期待したいと思います。



### 3. 2024年4月20日 筍堀イベント

出席者5名：古谷（S52 経）、三國（S55 工）、坂田（S57 理）、日野（S58 経）、平野（S59 経）

場所 山口市 佐山

昨年実施した「筍堀」を今年も実施させていただきました。場所は佐山の「川瀬眞孝旧宅跡の竹林」。川瀬眞孝旧宅跡に関しては「鳳翔 復刊第30号(2023年8月)」を参照ください。筍堀は1時間程度で十分な量を取ることができました。今年は、昼食を入れて時間を長めに設定しましたので、お弁当を食べながらゆっくり話をして楽しい時間を過ごすことができました。来年も引き続き開催したいと思っています。



### 4. 2024年4月30日 総会会場事前調査訪問

出席者3名：田村（S53 工）、三國（S55 工）、坂田（S57 理） 場所

萩市 堀内

3月5日の会議を受けて、2025年の山口支部主催のOB総会の準備を開始しました。総会準備のはじめの仕事は会場をどうするかです。最近の山口での総会は、徳地、秋吉台、湯田温泉で開催されました。これらを踏まえ25年の候補地を検討し、湯田温泉と萩で悩みましたが、湯田温泉での開催は瑠璃光寺の改修工事が終わる次の総会が良いのではないかと思います、これまで開催のない萩で行うことにしました。4月初めから萩のホテルに問合せを開始しましたが、各ホテルの反応が悪いので、4月30日に直接、二つのホテルを訪問し会場と宿を確認しました。諸交渉の結果、萩の菊が浜にある「千春楽」を予約することが決まりました。秋の東京支部による総会が終われば、山口での総会開催に向けて具体的なプランの計画に入る予定です。（写真なし）



## 5. エッセイ

### 上高地「河童橋」の徘徊

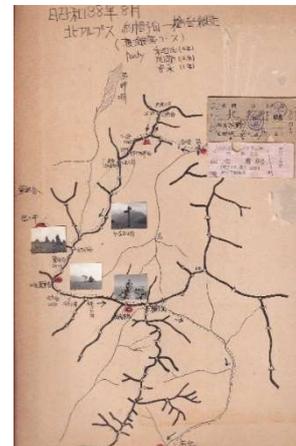
九州支部 S41年 文理学部卒 加藤征治

黒部峡谷や上高地は、日本の自然景観の中でも特に美しく、その自然環境や文化的価値を守るために、「特別名勝」及び「特別天然記念物」として指定されている（上高地公式ウェブ）。それで先般、また新緑の山々の景観を楽しみたくて、数年ぶりに信濃路を徘徊した。上高地では梓川に架かる吊り橋で有名な「河童橋」に立って、遠い昔昭和38年（1963）夏の“初めての登山”のことを思い出していた。吊り橋から見上げる雄大な穂高の山並みは、流れる雲に見え隠れし、やがて涙で霞んでいった。

筆者にとってその“初めての登山”とは、大学2年の真夏8月、大学が夏休みに入って、東北地方（飯豊・朝日連峰）のWV部夏合宿を終えた後日の山行きのことである。部活動として例年の春夏の合宿終了後は解散・自由行動で、部員それぞれ思い思いの徘徊（フリーワンデリング）を楽しんだものである。この夏は有難いことに、筆者と後輩の君と二人、先輩に誘われ、まさに手取足取で連れられて、テントを担いで三人山行であった。大学卒業後は、長い大学教員生活（教育・研究に従事）でWV活動から離れ、すっかり山が遠くになってしまった。

あれから60年以上も経ち、その間「世界遺産の旅」（旅鳥、HP記載）と称して国内外の旅（大小約40ヶ国）で、小さな山行はあったが、この山行が筆者にとって後にも先にも唯一の北アルプス登山ということになってしまった。セピア色に変わった古いアルバムの中に、当時の記録・写真を見つけたので、改めて先輩と後輩に感謝し、そのままここに掲げる。

さて、この「河童橋」（全長36.6m/幅3.6m）は、山間を流れる梓川に掛けられた小さな釣り橋に過ぎないが、山が開けて以来、広く言い伝えられて来た橋の名であり、山好きの人なら誰もがよく知る上高地の名物ともいわれる人気のスポットである。なお、橋を渡った対岸にあるカフェ（TROIS CINQ、トワサンク）の信州リンゴを使ったアップルパイは美味・絶品であった。



初代「河童橋」は明治43年（1910年）に当時あった跳ね橋

を吊り橋として架橋建設されたもので、爾来幾度か改築され100余年が経過している。先年

2010年には吊り橋100周年記念を祝うと記録にある。ちなみに、“初めての登山”（1963年）で渡ったのは、1957年に改架橋された第3代目の「河童橋」であった。現在の橋は1996年改架橋された第5代目のものであり、およそ20年ごとに修理架橋されてきたことになる。

「河童橋」というこの面白い橋の名は、その昔、下を流れる梓川の流れの淀む深いところを「河童淵」とよんでいたことから名付けられたとか。また、この川には「獺」（カワウソ）が多く住んでいて、川を渡る人達は荷物を頭に載せて流れを渡っていて、その姿が「河童」に似ていたことからそう呼ばれたとか、諸説ありいずれも定かではないようである。なお、話は横道にそれるが、江戸時代頃、全国に「獺」が多く住んでいて、まだ人体解剖が許されなかった時代には、盛んにニホンアワウソが解剖に用いられ、当時の解剖図譜が多く残されている。「河童橋」で思い出すのは、大正時代の日本の文豪芥川龍之介の小説『河童』（昭和2年、1927）である。これは日本社会や人間社会を痛烈に風刺、批判した、大変興味深い短編小説である。

この小説は当時あった「河童橋」（初代吊り橋）をヒントに書かれたとされている。芥川氏の年譜によると、確かに槍ヶ岳登山の記録がある（『槍ヶ岳嶽紀行』、明治42年8月）。また、「名作で楽しむ上高地」（大森久雄編、2019、山と溪谷社）中、「芥川龍之介の槍ヶ岳登山」（山崎安治）にも述べられている。

この小説『河童』は、何故か副題に「どうかKappaと発音してください」と不可解な一文がついている。その内容はよく読まれているように、朝霧がかかる日、上高地から穂高を目指す男が川べりで河童と出会い、河童を追いかけているうちに気づくと河童の国へ迷い込んでいたことから始まるものである。もともとある精神病患者が誰にでも何度も話すという話として物語が進められている。その中には政治・経済についてはさして深く語られてはいない。しかし、人間世界と比べて一見平和そうな河童の世界でもやはり争いは絶えず、その仮想敵国が河童によく似た獺（カワウソ）であることは面白い。また、物語の中には河童の心靈学会というのが出てきて、そこに集まった会員のいろいろな質疑応答の風景が記してある。その中で、「日本の一詩人（芭蕉）が『古池や蛙飛びこむ水の音』と17字詩を読んで死後有名になっているが、その詩は如何？」という質問に対して、ただ、「蛙」を「河童」とすれば更によかった（「光彩陸離」たるべし）と答えられているのに、筆者も笑えた。

小説『河童』は芥川龍之介の晩年の代表作であるが、執筆後数か月で自殺と言う悲劇に終わっており、芥川の命日（7月24日）が「河童忌」と呼ばれている。

なお、表題の徘徊は、辞書的に「目的もなく、ぶらぶら歩き回る」と言う意味として誤解を受けるが、日本の文豪、先の芥川龍之介や泉鏡花、国木田独步、太宰治などの諸作品にたびたび「徘徊」が出てくる。さしずめ、文学逍遥・散歩か。勿論、自然を愛し野山や島々をほっつき歩くワンダーフオーゲルでは、近年の高齢化社会での、時と場所をわきまえない高齢者の病的な（「認知症」など）ほっつき歩きの『徘徊』ではない。かつての若きワンデラーも、時代は移り変わり、己の非情なるエイジング・体力低下に、長い年月の経過を思い知らされる。

しかし、老体もそれなりに自然体で、四季折々天然の移り変わりと共に、まさに時代を越えた「青春の徘徊」をいつまでも楽しみたいものである。

## びわ灸一年生

九州支部 S60年 農学部卒 池田徳子

びわ灸療法士の資格を取り、東洋医学を勉強しています。

びわ灸は光明皇后の時代からあり、空海、豊臣秀吉、徳川吉宗、赤ひげ先生、貝原益軒と伝承されてきましたが、残念なことに敗戦後GHQにより禁止されました。👉残念ながら、敗戦国統治はまだ続いています。

びわの木は大葉王樹、枝、葉、根、莖共に大葉あり、病人は香りをかぎ、手に触れ、舌で舐めことごとく諸苦を治すとあります。私も天ぷら油の火傷、足指の骨折、水虫の時に助けられました。

今は血液をアルカリ性にして基礎免疫力を上げるためにびわ種粉末小さじ1を1日に取っています。

特にアミグダリン(ビタミンB17)が、癌細胞を特異的に破壊する効果があり、実際ステージ4の癌から復活された方も一緒に資格を取りに来ておられました。西洋医学は急性の時にはかかせませんが、東洋医学は難病、ストレス、年のせいと言われる病気に効果的の様です。

まだまだ修行中ですが、いつか赤ひげ先生のように治せるようになり、みなさんのお役に立ちたいです👉

病気にならない為に(未病)和食にするのはもちろんですが、食べ過ぎない、血液をアルカリにするというのがポイントです。梅干しを食べたり、クエン酸、柑橘を食べるのがオススメです。逆に動物食、砂糖、油、



小麦粉、乳製品は避けるべきだと…。ご褒美…ご褒美だらけになってしまいます(笑)しかし、名医は自分の中に居るそうです。

👉これはびわ灸に使う器具です。昔はモグサと火を使っていましたが、今はびわエキスを入れたお灸を赤外線で温めて使います。

先般、共に山大ワングル（WV）部の創設期に活動した昭和42年（1967年）卒のOB会員石松宏紀氏の逝去（5月20日没、享年82歳）の知らせを、彼の同期の会員から連絡を受け、哀しい眠れぬひと夜を過ごした。ここにご冥福をお祈りし、少しタイムスリップして彼との思い出を一筆記す。

それはもう昔々60年以上も前のことになるが、山口大経済学部の旧構内で、筆者が1学年後輩となる石松宏紀氏を見つけて、「石松！ 何しとんや？」と声をかけたのは昭和38年（1963年）の確か初夏の頃だったかと思う。彼は片手に珍しくふくさ（服紗／袱紗）と足袋を抱え、「お茶、お茶！」と少し照れて、いそいそと校舎の先へ行ってしまった。その時は、「石松とお茶、まさか茶道部？」という印象であった。

昭和30年代後半当時、大学入学当初の学生達は暗い受験期から解放されて、文化部・運動部を問わず珍しく、筆者もそうであったように、二つの部に所属し活動する学生も少なからずいたのである。石松氏と共に過ごした現役時代の実質的な山行きの活動期間はそれほど長くないが思い出は多い。最初は第1回の三学部合ワ（1963/6）であり、教育学部のトラックを借りて、部員が運転して秋吉台まで資材を運んだ（図左上）。印象的なのは次の県内合ワ（1994/5、図右上、左下）、そして第三回県内合ワである（図右下）写真はWMHP、OB会員からの近況報告：「仰ぎ見て遙か、顧みて一瞬」～WV創設期を振り返る、加藤、2022、由布院に掲載）



図にある大きなポリタンから水を飲む姿は、WV活動の本質？を示すような風景の1つである。なお、ポリタンと言えば、先年の故秋山邦雄氏の追悼文（鳳翔会九州支部活動記録、令和5年5月、P.42）に既に記した。それはある山行きのテントで夕食後寝袋に納まったひと夜、大食漢の食後の胃の鳴動音とポリタンの水音を間違えた笑い話である。

部の創成期頃は、WV活動の啓蒙に、山口、宇部、下関など近隣の県内短大に活動企画などを紹介し、女子部員（メツチェン）らの参加を募った。それにより参加者も増えてきて、急に元気になる男子部員たちもいたりして、県内合ワ活動は盛り上がった。まだ大学でワングル活動が珍しかった頃の時代的逸話である。

筆者は石松氏とは学部が異なることもあり卒業後会う機会もないまま年月が経ってしまった。再会したのはずっと後になってOB会設立により各支部持ち回りで総会・散策・懇親会が開かれるようになってからである。それ以来、年1度の支部持ち回りのOB会総会で逢い、皆と飲みながら語りあった。毎回逢う彼の周りには昔と変わらぬユーモア・笑顔があった。それで思い出すのは、毎回総会会場の受付ロビーで見られた、彼とOB会員淑女たちとの再会を祝う“ハグ”風景である。傍で羨ましく見ている筆者に、楽しそうに彼曰く「どうしてか、何時の頃からか、不思議と私たちの挨拶は“ハグ”なの！」と。確かに、彼には何年振りに会っても、そこに誰もが思わず“ハグ”したくなるような楽しさと懐かしさがあった。

筆者が彼の元気な姿に会えたのは、コロナ禍前の2016年九州支部OB総会開催（志賀島）であり、残念なことそれが最後の語り合となってしまった。その集合写真には、若き日それぞれ“青春の園”で活躍し、そして長い人生を歩んできたOB会員諸氏の姿が並ぶ。拡大してみると、そこにある緊張した顔や笑顔には、それぞれ元気でやんちゃだった半世紀以上も前の面影がみられる。そして悲しいことに既に鬼籍に入られた方々も居られ、共に哀悼の意を掲げたい。

最後に、石松氏が現役時代のある年の春合宿の山行きて詠んだ一句を紹介する。それは蕪村の名句「春の海——」ならぬ『春の平原、ひねもすニタリ、ニタリかな』である。当時傍でそれを聞いた筆者も、けだし名句と思わず大笑したことを思い出し、ニタリとする。彼の同期OB会員で盟友の平原氏の許可を得てここに掲げ、ご冥福を祈って合掌。

## 懐かしの船釣り

東京支部 S47年 文理学部卒 恵谷 浩

[eya-rcrc@waltz.ocn.ne.jp](mailto:eya-rcrc@waltz.ocn.ne.jp) 047-469-5723

広島県立福山工業高校機械科昭和37年卒業同級生4名と一緒に波穏やかな瀬戸内海・鞆の浦にて船釣り（海釣り）をした。鞆には、江戸に向かう朝鮮使節が常宿とした福禅寺があり、そこには朝鮮使節が弁天島や仙酔島などを眺めて「日東一第一形勝」と書いたという対潮楼がある。また、坂本龍馬のいるは丸談判跡などがある。千葉県在住の筆者は前日、福山市在住の同級生宅に泊めさせてもらっており、同級生の車で鞆に。鞆に在住で海釣り用の船を持っている同級生の迎えの車で5名が途中、スーパーでビールとつまみ、飲み水を買って、鞆の船着場へ。餌や釣り竿などは準備してくれている。同級生・船長が鮮やかな操舵で8:20、阿伏兎観音から弁天島の先の釣り場に向かう。キス、ギザミなどを釣り、9:21 田島の浜に上陸しトイレ休憩。12:08 釣り場を仙酔島の彦浦沖へ移動。魚は潮が満ちるときに釣れるから今日は終了として、14:17 仙酔島の船着場に船を着け、上陸。国民休暇村の国民宿舎仙酔島にて大漁を祝してビールで乾杯・遅い昼食。入浴後、船長の船で鞆の船着場に行き、解散。



8:20 鞆の阿伏兎観音



9:21 田島の浜にハシゴを下して上陸/遠方に常石造船所のクレーン



12:08 仙酔島の彦浦沖/中央遠方は皇后島とその向こうの沼隈半島



12:14 彦浦沖でライフジャケットを着て釣る



14:17 仙酔島の船着場



14:30 国民宿舎仙酔島で乾杯/右手前が筆者

私は現在毎日文化センター「季節と旅の漢詩」講座を受講していて、昨年に続き今年は6月14～18日に、そこの高橋恵子先生企画の“西安、三門峡・函谷関の旅”に参加した。先生はアナウンサーとして、中国国際放送局に数年勤務され「漢詩歳時記」を担当されていた経歴の方で、また中国語を静岡県で教えており、旅行メンバーは私以外は受講者の方達だった。先生がツアーガイドも務めて総勢12名の団体ツアーだった。

初日 朝6時羽田空港集合、北京空港乗り換えで西安に到着したのは18時（現地時間：日本時間よりマイナス1時間）で、夕食後ホテル到着は21時であった。

15日 午前中は楊貴妃が遊んだ華清池へ。お風呂跡と蒋介石が軟禁された西安事件の場所も見学。昼食は秦代をイメージしたレストランで、食事前には秦始皇帝服装の従業員が食事内容等を読み上げ、食後は秦代服装を着て記念撮影。午後は兵馬俑博物館へ。東京ドームより広い中に8千体以上の陶製の人や馬等が展示され、2000年以上前に作られた事に感動した。数年前に国立博物館にて兵馬俑展があり見に行ったが、本物が目の前に整然と並んでいると圧巻だった。1号坑から3号坑まであり、まだ発掘しながら復元しているようだ。



華清池

西安事件案内板

秦始皇帝気分

兵馬俑博物館

16日 高速鉄道にて約1時間後三門峡市。地面を掘って作られた洞穴住居の一つ地坑院風景区へ。地坑院とは「地下の中庭」を意味し、中国北部の黄土高原などによく見られる洞窟住居（窑洞：ヤオトン）の一種だそう。冬暖かく夏は涼しいし、昔は盗賊などが村を襲っても地下で見つからず、好んで作られたとの事。この地区は昨日と違ってまだ中国人観光客も少なくゆったりと見学できた。広場では地元の民族楽器の演奏もあった。昼食後に今回旅行のハイライト函谷関へ。その前にここは老子の生まれた所である寺廟にお参りした。函谷関に着いた時は雨となり、簡易ポンチョをガイドさんから頂いての見学となった。箱根八里に、箱根の山は天下の嶮函谷関もものならずと歌われており、非常に興味があつたが、あいにく雨でもあり本来の場所では嶮を実感できなくて残念であった。



地坑院

老子の寺廟

函谷関

函谷関跡

17日 早朝散歩がてら碑林博物館へ行った。今回の旅行日程表になかったが是非行きたかった場所である。石碑・墓碑・金石文・墓誌名等多数を有し中国最大の石造書庫と称されていて、書道を勉強している身としては欠かせない。事前準備では大改装中であり見学不可であったが、せめて入口の門は見たいと思って

いた。ガイドからホテルから徒歩20分もあれば着くといわれたが、グーグルを利用してはなかなか着かない。(操作ミスで車の経路を歩いていて)1時間後にやっと近くまで来たがわからない。警官がいたので思いっきり下手な中国語で聞いてみた。どうにか通じたようで近くまで一緒に歩いて案内された。その後彼から何国人?と聞かれた。日本人と中国語で何度も言ったが通じない。しかたないので、手で日本と書いたらやっとわかってくれた。その後彼が肩をつかんだ。えっ!俺拘束される?恐怖がちょっと走った。彼は自分の携帯電話を近くにいるおばちゃんに渡し、一緒に写真を撮ろうと。あー。にっこり笑って写真撮影。中国語レベル低さに身をもって感じた瞬間だった。ホテルへの帰路、城壁の公園に吉備真備の碑発見。

朝食後、興慶宮公園(唐時代の宮殿跡地)へ行き、阿倍仲麻呂記念碑見学。その後空海が密教を学んだ青龍寺へ、空海記念塔は日中友好として1980年代に四国の県をメインとして寄付金を募り建立された。

次は大恩寺(大雁塔)。ここは玄奘和尚がインドから持ち帰った経典を収めた場所であり、入口には唐時代三大書家の褚遂良の雁塔聖教序があり、碑は二石に別れてある。書道教本の本物が目前にあり深く感動した。ゆっくり見たいが多数の中国人観光客でごったがえしており、急ぎ写真撮影して離れた。昼食は名物びゃんびゃん麺。麺はきしめん風、味は辛目でどんぶり内の麺は2つで繋がっていた。

午後西北大学(中国十指)博物館へ。本来月曜日は休館だがガイドさんの出身校でもあり事前申し込みにより特別許可だった。橘逸勢碑、彼は空海、嵯峨天皇と共に三筆の一人。井真成墓碑、彼は中国にて発見された墓誌に日本人留学生として記された姓名であり、現存石刻資料中で「日本」と記述の最古の例とか。他に化石等の見学。

夕方に秦始皇帝の阿房宮跡に。



碑林博物館

阿倍仲麻呂記念碑

空海記念塔

玄奘像と大雁塔



雁塔聖教序碑

橘逸勢碑

西北大学博物館

井真成説明文

阿房宮跡にて

18日 西安から北京へ。北京空港にて故宮博物館の画像に署名体験。今回は実質3日間であったが、土産物屋への強制も無く文化に特化した旅でありガイドさんと書道の話でも盛り上がったし、中国の2000年の歴史を感じ、遣唐使になった気分がとても満足した旅だった。また西安は人口も多いが非常に活気に満ちた都市であり、身をもって中国の勢いを知らされた。



ガイドさん



画像署名

2024年7月13日記



書くことが好きである。雑文の類は地元のミニコミ誌でもう4年連載を続けているし、ローカル新聞や航空専門誌には、これまで航空関係の話題を書いてきた。ここに掲載した8枚の写真は、これまで出版した本の表紙である。その内容は一覧表にして示しておいたので関心のある方は見ていただきたい。実は

No.	書名	出版年	ページ数	サイズ	内容
1	アスタ・マニャーナ	2003	328	A4	メキシコ勤務時代のエッセイ集
2	クロスカントリーソアリング	2006	176	A4	グライダー飛行技術書・翻訳
3	山口県の航空史あれこれ	2007	148	B5	山口県の航空意外史
4	蒼天	2008	141	A5	父の遺歌集の解説と編集
5	夫婦で歩く萩往還	2009	80	B5	萩往還珍道中記
6	年表 山口県航空史1910-2010	2015	340	B5	1910年からの山口県航空史
7	福田侠平	2017	49	B5	奇兵隊・軍監 福田侠平解説
8	山口グライダー物語	2018	344	B5	明治期からの山口県グライダー史

2006年に出版したグライダー飛行技術書の翻訳本以外は全て自費出版である。どこかの出版社が取り扱ってくれば印税が入って来て万々

歳なのだが、まさかそんな夢のような話は素人にはあり得ないから、私の場合、自費出版に頼らざるを得ず、結構なお金がかかるし、また個人的に在庫もかかえねばならない。本の出版が道楽と言われる所以である。昨今、自分史などの自費出版が盛んのように、多くの出版社が取り扱っているが、要求される費用には吃驚させられる。出版社から出したグライダー飛行技術専門書の翻訳本も、採算に合いそうにないということで相応の出資を強いられた。ということで、8冊の本で、これまで数百万円の費用を掛けている。私の場合、自費出版本の印刷部数は500部を基本にしているので、それをどれだけ知り合いに買っていただけるかが勝負となる。ただし、あくまで趣味だから差し上げることも多いし、国立国会図書館、山口県立図書館にはすべて2冊ずつ寄贈しており、本の内容に関係する市立図書館にも寄贈している。もとより儲けようなどとは思っておらず、出来れば収支トントンを目指しているが、それもまず無理である。要は、自分が書きたいと思ったものが、ある程度の分量になればそれを本にしたいと思うのは当然で、繰り返しになるが、まあ突き詰めれば費用の掛かる自己満足、道楽であるのは間違いない。

ただし、私はこれだけは信じて疑わないのだが、電子媒体というものは、いずれ散逸してしまう運命にあると思っている。しかし、古代の古文書が今も残っているように、紙ベースの資料や本は未来永劫残るはずである。有難いことに、国会図書館では出版物は全て、山口県立図書館でもこれらの本が山口県人によって書かれており、また山口県の郷土史に関係していれば、永久保存の扱いを行っている。私が苦労して書いた山口県航空史三部作など、これから先もこんな分野を書くような人はまず現れないだろうから、手前味噌ながら、かなり貴重な資料となり得ると自信を持っている。これも自慢話になるが、何年前か、地元テレビ局から、「県立図書館でアドバイスを受けた」と言って、山口県出身の著名な創成期の航空人に関する取材を受けたこともある。しかし、私も71歳となり、もうこれ以上著作のための長期にわたる調査をする気力はない。それで今は、A4一枚に自前のイラストが写真を添えて好き勝手に雑文を書き、30数名のワングルOBの方に、二日に一度のペースでお送りしている。それがもはや1,700編を越えた。もし、読んでみたいと思われる方がおられれば、[shin-cas@c-able.ne.jp](mailto:shin-cas@c-able.ne.jp) までご一報を！愛読者になっていただければ有難い。

令和6年7月9日、東京都庭園美術館（港区白金台）を訪れた。

妻が「竹久夢二展を観たい」という。同行して夏の一日、美術を楽しむ。

JR目黒駅で下車。10分ほど歩く。交差点の向こうに森が見える。庭園美術館だ。

#### ◇旧朝香宮（あさかのみや）邸

庭園美術館は旧朝香宮邸を活用し、昭和58（1983）年、美術館として開館した。

朝香宮鳩彦王は欧州留学中、フランスの室内装飾に魅せられたようだ。フランスの室内装飾家、アンリ・ラバンが大広間や客室、大食堂などの内装デザインを手がけ、昭和8（1933）年、竣工した。

戦後、政府が借り受け、吉田茂外相・首相公邸として使用される。その後、白銀迎賓館として国賓ら要人を迎えた。

広大な芝生の庭。西洋庭園。そして茶室を備えた日本庭園。四季折々の情景が美しい。

#### ◇幻の名画「アマリリス」

受付を済ませ、館内に入る。広間に名画「アマリリス」が1点、展示してあった。1点だけ。

赤いアマリリスの鉢植えとともに和服姿の若い女性が描かれている。職業的なモデルにして、夢二の恋人でもあったお葉だ。この画は大正8年、展覧会に出品されたが、長い間、行方が分からず、「幻の名画」といわれていた。大きな瞳。はかなげな風情。わたしは遠くから、そして近くから、じっとお葉を見た。お葉と目が合ったのか。目が合わなかったのか・・・。

#### ◇竹久夢二の人生

館内には、夢二の多くの作品とともに年譜が表示されている。

明治17（1884）年、岡山県で生まれた。本名は竹久茂次郎（もじろう）。

15歳のとき、家族は福岡県の八幡に引っ越す。

八幡はわたしのふるさとだ。妙に親近感を抱く。夢二は八幡製鉄所の製図筆工として働いたという。

その後、上京。画家として生きていくことを決意する。

夢二の作品は多彩だ。夢みるような表情を浮かべた女性。旅の中で出会った風景。手をつなぎ、遊ぶ子どもたち。そして日用品のデザインも行った。その作品は同時代の人々に愛された。若くして名声を得る。東京・世田谷に住居兼アトリエ「少年山荘」を建て、若い芸術家と交流した。そして横浜港からハワイに出航。米国から欧州に渡る。「順風満帆」ということばが浮かぶ。

#### ◇3人の女性

夢二は東京で年上の末亡人、岸たまきと出会い、結婚。長男が誕生するが、離婚する。その後、女学生、笠井彦乃と出会う。彦乃の父親は夢二との交際を禁止するが、ふたりは密会を続ける。ところが、彦乃は若くして病死するのだ。夢二は絵のモデルとなったお葉と世田谷の少年山荘で暮らすようになる。

3人の女性の写真が残っている。みな、美しい。

#### ◇夢二の最期

夢二は欧米から帰国する。結核のため、長野県の療養所入院する。親しい医師の手厚い看護を受ける。昭和9（1934）年、死去。享年49。最後の言葉は「ありがとう」



先日、自転車にテントを積み日本を旅しているドイツ人学生（23歳）に出会った。文明の利器、スマホの翻訳アプリを利用してスムーズに会話ができた。

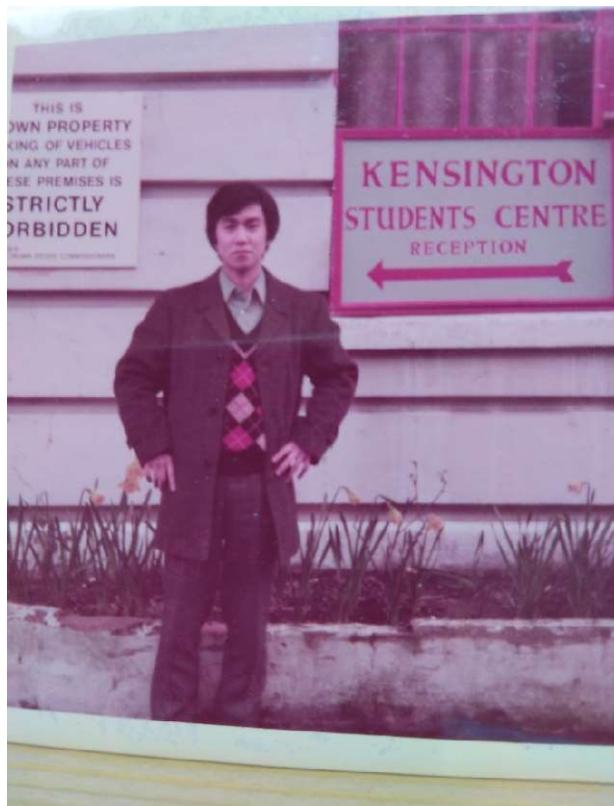
日本にはコンビニ弁当（ベントーボックスと彼は言う）とスーパー銭湯（オンセンと彼は言う）があり、旅人にとっては便利でありがたいとのこと。ドイツにはコンビニエンスストアが軒もないと教えてくれた。外国人と話をすると相手の国のこともわかるし、日本のことも新たな視点から考えることができる。

彼と同じ23歳の時に、「外国を一人で歩き回る」という私の子供のころからの夢が実現した。その頃、学生向けの格安海外旅行（往復航空券とユーレイルパスの代金のみ）があった。冬期催行でさらに割安に料金が設定されていた。2回目の大学4年の卒業直前の2月・3月だった。2月16日にロンドンに降ろされ、3月19日にパリに集合するまでの30日間は自由行動というものだった。

ザックを背負い旅するバックパッカーが流行り始めた頃であった。ワングルのキスリングは汚れていて大きすぎる、それに冬のヨーロッパを旅する防寒具もない。どうしよう。旅費すべて親のスネをかじっているのに、変な所で遠慮して、かじりついでにかじり尽くすことは思いつかなかった。ザックよりトランクが丈夫でよいと言って、大学の指導教官が快くサムソナイトを貸してくださった。新たに防寒具は購入せず、セーターと高校時代に着ていたハーフコート、それに姉が自分で編んで使っていたマフラーを借りた。トラベラーズチェックは、下関にあった東京銀行で購入した。

ヨーロッパ往復は北極回りの便だった。羽田からアンカレジまでが8時間、アンカレジからロンドンまでが、また8時間だった。日航ジャンボ機だった。機内食がおいしかった。

旅程…2月16日～21日、イギリス：ロンドン；大英博物館、戦争博物館。ポーツマス；記念艦ヴィクトリー。22日、フェリーで大陸に渡り、夜行列車でドイツへ。23日～25日、ハンブルク；レーパーバンの飾り窓を見る。26日～28日、デンマーク：コペンハーゲン；人魚姫の像、アンデルセン像。風邪をひく。28日、デンマークからドイツへもどる。3月1日～3日、フランクフルト；風邪の熱のためホテルに沈。ホームシックになる。4日・5日、ミュンヘン；1972年のオリンピックのメイン競技場。6日～8日、コンスタンツ；日本人のKさん宅に2泊。9日・10日、スイス：チューリッヒ；ルチェルンからエンゲルベルクまで行き、ケーブルカーとロープウエーでティツリス山に登る（ワングル魂が出る）。ガスと寒さのため1500m地点で引き返す。11日～13日、イタリア：フィレンチェ；ウフィツィ美術館。14日、スイス：ローザンヌ。15日～19日、フランス：パリ；ルーブル美術館、印象派美術館、国立近代美術館。



移動…列車と徒歩が主な移動手段であった。ロンドン、パリでは地下鉄も利用した。

食事…パンとソーセージとチーズをかじっていた。飲み物の自動販売機はなく、ましてやペットボトルが

出現するずっと前の時代なので、水分補給は瓶ワインをサイドバッグに入れ、コルク栓を抜き差ししながら飲んでいました。ロンドンではパブのビールとソーセージでお腹を満たす。最終国のパリではセルフのレストラン（ア・ラ・カルト）を利用して満足な食事ができた。水代わりにハーフサイズのワインを添えた。クレープとクロワッサンを知る。果物のオレンジを初めて口にする。

宿泊…ユースホステルの利用は数回で、ロンドンではベッド・アンド・ブレイクファストと呼ばれる民宿を利用した。大陸の国々では、できるだけ安いホテルに宿泊した。ドイツのコンスタンツで、日本人のKさん（指導教官の知人）宅に二泊した。旅の中間地点で、心身共にリフレッシュできる宿泊場所となった。

美術館巡り…中学生の頃から西洋絵画に興味を持っていた。教科書や画集で見ていた絵の本物を見るのもこの旅の目的の一つだった。フィレンチェ、パリには美術館が多く堪能した。

海外一人旅…若さが23歳の自分を動かしたのだろう。そこででの体験で得たものが、その後の人生の支えになったと思っている。

## 石松さん追悼

九州支部 S45年 経済学部卒 武富(伊藤)敏夫

ここ数年諸般の事情で賀詞交換をしていませんので、石松さんの最近の動静は把握していません。数年前に入院されたとお聞きしていましたが、令和6年5月20日にご遠行されたと連絡がありました。

私が山大ワンゲルに入部したのは、昭和42年1月中旬からです。在学時代は石松さんや秋山さん(令和4年逝去)など昭和42年3月卒の先輩との面識は全くありません。石松さんとは、昭和42年春の部長杯マラソンの激励で山口を訪れたときと、昭和43年9月23日開催の第1回OB総会で一緒に写った写真が残っています。

石松さんとは、平成14年から新しく始まったOB総会から、親しく交流が始まったのではないかと思います。また、九州支部の活動で何度かご一緒させていただきました。あるOB総会で、「私と同期の山岡君(平成17年逝去)が 彼の子供の就職の件で相談に来た」とか、「私から誘いを受けた行事に参加しておけば良かった」と言われたことが思い出されます。

元気な頃に石松さんとご一緒した山行などは次のとおりで、いずれも思い出深いものです。

福岡に転居する直前の平成19年9月28日～30日に、熊谷さんと3人で会津駒ヶ岳に行きました。先頭で早く歩いて登られるので「ゆっくり行きましょう」と、後ろから話しかけても聞こえなかったようでした。秋山さんは「彼は耳の調子が良くないから 後ろから話しても理解できていない 自分の言いたいことだけを言う」と言われていました。

九州支部の平成21年11月7日の万年山(大分県)、平成22年11月13日の天山(佐賀県)、平成24年3月10日と6月2日の風師山(福岡県)、平成25年11月23日の萩往還(山口県)に元気に参加されました。特に万年山と風師山(6月2日)へは奥様とご一緒に、ご夫婦で近郊の山に登っているとのことでした。風師山は九州支部引き受けのOB総会の下見を兼ねた山行でしたが、山頂で風師山との思い出を熱く語ってくれたことが、印象深く記憶に残っています。

体調を崩される前の平成14年から平成28年までのOB総会にはほとんど参加されており、秋山さん同様、山大ワンゲルをこよなく愛された一人でありました。先に旅立たれた岡田さん(令和2年逝去)や秋山さんとご一緒に冗談でも言いながら、天の上で一味違ったOB活動をされていることでしょう。改めてご冥福をお祈りいたします。



旧国鉄佐賀線(以下佐賀線という)は、佐賀県佐賀市の佐賀駅から福岡県みやま市の瀬高駅間の約 24km を結び、旧国鉄が運営していた鉄道路線であり、昭和 62 年に廃線となりました。佐賀線には、佐賀、東佐賀、南佐賀、光法(みつのり)、諸富、筑後若津、筑後大川、東大川、筑後柳河、百町(ひやくちょう)、三橋、瀬高の 12 の駅がありました。廃線にともない、現在はその代替輸送として、JR 佐賀駅から西鉄柳川駅までバスが走っています。

この佐賀線の線路跡をたどり、当初は約 24km を 2 回に分けて歩く計画でしたが、体力、費用、利便性などを勘案し、筑後川昇開橋展望公園(以下展望公園という)に車を駐車して、約 6km を歩くことにしました。展望公園は筑後若津駅跡で信号機などが残っています。

南佐賀駅跡から諸富駅跡手前の獅子の広場までの線路跡の約 5km は、歩行者・自転車専用道路の「徐福サイクルロード」として整備されており、春には満開の桜並木を楽しむことができます。約 2200 年前に秦の始皇帝の命を受け、不老不死の仙薬を求めて旅に出た徐福は、薬草フロフキを佐賀の地で発見したと伝えられています。佐賀には数多くの伝承が残されており、昔から「徐福さん」と呼ばれ親しまれているとのことで、これにちなんで歩行者・自転車専用道路は、「徐福サイクルロード」と命名されたのでしょうか。



佐賀線は、諸富・筑後若津間で筑後川を渡ることになりましたが、通常の橋では大型船舶の航行に支障をきたす恐れがあるため、筑後川昇開橋(全長 506m、以下昇開橋という)は、列車通行時以外は橋桁中央部を 23m 上昇させることができる跳開橋としました。現在は国指定の重要文化財となっています。左の写真は展望公園側から諸富方面を撮ったものです。



今回は、展望公園から徐福サイクルロードの終点・南佐賀駅跡まで歩き、自動車学校前バス停からバスを利用して展望公園に戻る約 6km の散策です。展望公園には 30 台程度駐車でき、トイレも整備されています。

昇開橋入口右手に幸福の鐘がありますが、それを鳴らすロープがついていません。管理事務所の係の人から「深夜に鳴らす人がいて 近隣住民に迷惑をかけるので 鳴らすことができないようロープを取り外している」との説明を受けました。

早朝にも関わらず、既に昇開橋入口の扉は開いています。跳開部の手前に管理事務所があり、係の人から橋桁中央部を約 1m 上昇して見せていただきました。商売上手なのでしょう、昇開橋を掘ったガラスコ

ップの説明を受け、それを衝動買いしてしまいました。

昇開橋を渡る筑後川の間地点が福岡県と佐賀県の県境で、それを示す標識があり、渡り終えると昇開橋をバックに、2012 年 3 月、徐福東渡 2222 年を記念して、徐福出航成功地・中国の慈溪市と上陸地佐賀市との交流を深めるため、慈溪市から送られた徐福の石像が建っています。

文化体育館(諸富駅跡)を経て獅子の広場までの線路跡は歩道となっていて、「桜やチューリップ開花の時期には 文化体育館で催しの物があり大変にぎやかになる」と散歩中の方が話してくれました。

獅子の広場から光法駅跡、南佐賀駅跡までの「徐福サイクルロード」は、緩やかなカーブや直線道路の桜並木のトンネルの連続で、桜やチューリップ開花を想像しながら散策を続けます。「徐福サイクルロード」には、自転車、徒歩、ランニングする人それぞれで、皆さんを追い抜いたり追い抜かれたり、行き交いながらゆったりした散策です。

米どころ佐賀ですからクリークがいたるところにあり、クリークを横切りながら、光法駅跡を通り過ぎ南佐賀駅跡に到着です。南佐賀駅跡のトイレには、昔のままの時刻表・運賃が次ページの写真のように掲げら

れています。プラットホーム跡に佇み目を閉じると、乗降客の雑踏と発車のベルが聞こえてくるようで、往時を偲ぶことができます。

出発した展望公園までは、バスで自動車学校前バス停から大川橋バス停まで移動です。バスを待つ間、バス停で持参してきたみかんを食べましたが、普段の日常生活では考えられない行動ですね。



昇開橋を横から見学するため、大川橋バス停から筑後川の土手を通

り、駐車場に向かいますが、左の写真のように横から見る昇開橋も大変すばらしいものです。民家にある大きな「モチノキ」が赤い実をつけていて、昇開橋を見学する人を歓迎してくれているようです。

【参考】

西日本新聞 旧佐賀線を自転車旅 2024年2月1日  
廃線探索 佐賀線



## 山口県最高峰 寂地山

関西支部 S48年 経済学部卒 上田 功

1971（昭和46）年12月25日、山口で迎える3度目のクリスマスの日夕刻、辺りは暗闇の中、忘年ワンデリング（12月24日～26日）ベース地・寂地峡キャンプ場に、部員の皆に丸1日遅れて到着した。

その年の10月に申し込み、佐賀市近郊の聖母の騎士会運営の知的障害児施設でのワークキャンプ（12月18日～25日）への参加が事前に決まっていた為、忘年Wと日程が重なり、「主将が部の行事を疎かにするのは如何なものか」云々、部内に非難の声は少なくなかったが、中島副将以下各位の「理解」のお蔭で我が儘を何とか通させて貰った。

皆は25日の内にピストンで寂地山に登頂したが、稜線から上部の積雪が深く相当に難渋した由。筆者は翌日26日の早朝に単独でさっさと往復するつもりであったが、佐賀から直行で駆け付けた足下は登山靴ではない。流石に雪山には登れないと自重し、いずれ近い内に登れるだろうと軽く判断したに違いない。寂地山は諦めて皆と一緒に山口へ引き揚げた。50年以上昔にそんな事が確かにあった。

この忘年Wのことを、参加した同期/1期下/2期下の面々は、総勢20名前後だったと思うが、覚えておられるだろうか。

以来幾星霜適当な機会の訪れることはなく時は流れ、半世紀越しに宿題が解けたような心持ちだと言えなくもないが、大阪梅田発着・広島廿日市市潮原温泉「旅館松かわ」前泊/当日泊の2連泊の登山ツアーで、本年2024（令和6）年4月28日に寂地山に初めて登ることができた。

神戸から今般どうしてわざわざ岩国の奥山・寂地山へ出かけたのか！訳は決して半世紀以上前の借りを返す為というような事ではなかった。当時は全く意識していなかったが、寂地山が山口県最高峰であるからに他ならない。実は、筆者は47都道府県最高峰登頂も目指していて、最近で言えば昨年から今年にかけて岡山/後山、香川/竜王山、高知/三嶺に加えてこの山口/寂地山と計4座に登り、残りは9県/8座。健康寿命との競争になろうが、出来れば登り切りたいなあと思っているからだ。

ところで、YUWVで地元山口県の山の番付表を作成するとしたら、寂地山はどの辺りに鎮座しますのだろうか。地理的には、広島地区の各大学からの方がはるかに近く、山口や宇部からのアクセスは楽に日帰りとはならないだろう。それでも山口県最高峰であり、かたくり街道と称される程、春先のかたくりの大群生地として、近年では全国的にも広く知られるようになってきている。

鳳凰山が横綱であることは別格として、山本元会長夫人ご推奨の「山しゃくやくの十種峰」と並んで「かたくりの寂地山」として、東西の大関を張って欲しいと思うが如何だろうか。筆者が知らないだけで実際にそうであれば良いのだが、YUWVの面々には「かたくりの寂地山」/「寂地山のかたくり」をもっともっと愛でて貰いたいなあ、とそんな事を思い浮かべて下山後にも潮原のラドン泉を呑み、ラドン温泉にゆるりと浸かってきた山旅であった。

## 6. 近況報告

### 近況報告

関西支部 S51年 工学部卒 池田 純

さて私の近況ですが去年古希を迎え、だいぶ身体も衰え若い時にはできていたことがどんどんできなくなってきています。会社のほうは3年前にリタイヤし悠々自適と言いたいところですが、ボケの家系なので死ぬまでに実施することを決めて努めて何か行動をするようにしてます。ちょっと紹介させていただきます。

#### 1) 田んぼの耕作

大阪のてっぺんの田舎の能勢に義父が残した田んぼが5反ほどあり、ほっといて自然に返してもいいのですが周りの方たちにアドバイスを受けながら何とか耕作を続けてます。田んぼは畑と違いあまり手がかからないのですが初期投資がすごいです。義父が残した機械類(トラクター、田植え機、他)は義兄に譲ったので、トラクター以外は買いそろえましたがシニア社員として稼いだ金は全部使い切りました。トラクターは倉庫に眠っていた古いものを自分で整備して動くようにしました。(このへんはさすが工学部出身、ただちょっと古いので使い勝手悪く、最近買い足して2台になりました。)山の中の田んぼなので、平地と違い水路の維持や、付随する土手の草刈り作業など田んぼ以外の作業があるので大変です。害獣もひどく今年も植えたばかりの苗を鹿にかなり食べられました。ただ鹿もよくわかっているのか苗の上のほうだけ食べるので影響は少ないです。網を張っているのですが簡単に押し倒して侵入してきます。年に一二度網に慣れていない小鹿が網に掛かります。かわいそうですがこの時は猟師さんが役場の人に頼んで処理してもらいます。今住んでいる滋賀と能勢は遠いので能勢の古い家を購入し通いで作業してます。家を購入といっても田舎のことでびっくりするくらい安いのです。(かといって皆さん安易に購入すると、田舎の場合処分できないことが多くよく考えたほうが良いです。)田植え時の一発除草剤のみで他に農薬を使わない農法なので虫害による米の変色が多かったのですが最近は技術が発展し後処理で変色米は除外できるようになったので人様に差しあげられるようになりました。

#### 2) ロケットの打ち上げ見学

一応技術者のはしくれとして工学技術の粋を集めたロケットに興味がありその打ち上げ瞬間をかねてから見たいと思ってました。思い立って去年の2月にH3ロケットの初号機それから今年の2月に2号機の打ち上げを種子島まで見に行きました。初号機は切り離しがうまく行かず、搭載されたいち3号機とともに爆破されものの見事に失敗でしたので今年はリベンジでの参加です。場所は鹿児島県の種子島宇宙センター発射場。近辺は当日立ち入り禁止ですので、近くの恵美之江展望公園での見学です。見学できる場所としては最も良く予約が必要です。行けばわかるのですがリピーターが多く打ち上げの瞬間は門外漢の私も大興奮で大の大人が抱き合っ涙を流す姿はそれだけでも感激です。種子島は縦に長く港から発射場までは遠いので島に前泊するか鹿児島港から早朝に出発するツアーのジェットフォイルの特別便に乗る必要があります、特に初号機の際は予約を取るのが大変でした。H3ロケットは先日3号機が成功安定してきているようなのでツアーの切符も取れやすくなっているようです。証拠写真ですが古い先短く経験することはその場で目に焼き付けるので打ち上げの写真はありません。(ネットで見てください)その代わりに途中で寄った千坐の海食洞窟の写真添付しておきます。



種子島 千坐海蝕洞窟 (千人が入れるという)



最近の筆者 (くたびれてる)

#### 3) 旧東海道てくてく歩き

日帰りで少しづつですが京都から東京まで歩いてます。京都五条大橋(東海道の起点は本当は三条大橋)から今は沼津あたりで、紙面が無くなったのでこの話は今度にします 以上

桜と菜の花が咲き、四国の巡礼に最適の時季となり娘と4歳の孫娘、それに不治の病の女房と一緒に徳島県を観光、遍路した。娘の要望により観光を主体とし、遍路は従である。ちなみに、筆者は9年前の9月18日に電車で瀬戸大橋を渡り、1番札所・靈山寺から札所順に(順打ち)、約1,200kmを全て歩いて51日目に88番札所・大窪寺に到着、満願・結願している。筆者はそのときの巡礼姿、すなわち白衣(びやくえ)・金剛杖(こんごうつえ)・菅笠(すげかさ)・輪袈裟(わげさ)などで今回も旅した。

2024年4月2日(火)：東京から新幹線、新神戸駅から阿波エクスプレス神戸号で鳴門公園口。歩いて大鳴門橋の下にある遊歩道・うずの道に。大鳴門橋は全長1,629mの吊り橋で、遊歩道から45m下の鳴門の渦を見ることが出来た。鳴門グランドホテルに宿泊。7階の和室10畳・2食付14,300円/大人1名、7,150円/子供。

4月3日(水)：JR鳴門線、JR徳島線と乗り継ぎ、阿波川島駅下車。約1km歩くと川島城があり、桜が満開。吉野川に架かる全長285mの川島橋へ。沈下橋あるいは潜水橋とも言われている。増水時に橋が水面下に没するように造られており、流木や土砂が橋桁に引っかかり橋が破壊されたり、川の水がせき止められ洪水になることを防ぐように、欄干がない。橋を渡った所には菜の花が咲き誇っていた。四国八十八か所7番札所の十楽寺へ行き、宿坊に。持参の納札(おさめらだ)に住所・氏名を書いた。孫にも書かせ、今年幼稚園の年中組に入園したら、お友達がたくさん出来るようにお願いしなさいと伝えた。本堂にお参りし、納経所で墨書・御朱印を頂いた。参拜の後、入浴して18:00から食堂で一斉に夕食。精進料理ではなくて、魚などかなり豪華。



12:20 吉野川に架かる川島橋(中央)を背にして

4月4日(木)：6:30から本堂で住職の朝のお勤めがあり、椅子に座り、住職のお勤めの仕草と念仏を見・聞きした。7:00より朝食。8:45、タクシーを呼んだが来るまでに時間がかかり、JR徳島線鴨島駅に着いたときは電車で遅れ、次の電車を待つ間、近くの江川鴨島公園に。満開の桜とともに、無類の桜愛好家でもあった平安末期から鎌倉初期の西行法師が訪れ、「夏の夜すがら江川の虫通う心の闇照らす」の歌碑があった。鴨島駅12:23発JR特急剣山5号に乗車。孫と娘は娘が駅舎内の広告で知ったアンパンマン指定席をスマホで購入。筆者と女房が自由席から行ってみると、孫は指定席内に造られたアンパンマンに大喜び。



15:41 天空のブランコを漕ぐ孫と娘

13:18、阿波池田駅に着。タクシーに乗り、約30分・6,000円で第66番札所・雲辺寺へ。四国88か所の札所で一番高所となる911mにある。境内には山門、本堂、大師堂、拝殿、奥殿、鐘楼、護摩堂、念じながら腰かけると願いが叶うというおたのみなす、五百羅漢・釈迦仏・千手観音・不動明王などの石造、大師乳銀杏の巨木などがある。本堂に参拜。孫と娘は石輪をくぐり、おたのみなすに腰掛けた。雲辺寺公園に上る。公園には讃岐平野や瀬戸内海、瀬戸大橋、岡山県までも眼下にして漕ぐことができる天空のブランコなどがある。ところが、あいにくの天候で公園は霧の中。しかし、孫は広々とした芝生を走り回ったり、ブランコに乗ったりして大喜び。雲辺寺ロープウェイ山頂駅へ。約7分間で高低差657mの山麓駅へ下る。タクシーに乗り、JR多度津駅へ。ホテルトヨタ泊。ビジネスホテルなのに和室6畳、6,600円/大人1人、3,300円/子供。途中で購入した筆者用の缶ビール350mlなどで夕食。



4月5日(金)：9:44多度津駅発・特急南風6号、瀬戸大橋を渡り、10:33岡山駅着。歩いて岡山城へ。さらに旭川にかかる月見橋を渡り、後楽園を観光。水戸の偕楽園、金沢の兼六園とともに日本三大庭園の一つ。いずれも大名が造営した回遊式庭園。

11:36 岡山城近くの満開の桜を背に/右から2人目が筆者

待ち合わせ場所の JR 東広島駅で下車すると、駅前の圓鏗勝三作「わ」の像が、私たち 2 人(熊谷、武富)を歓迎してくれました。この像は、平和と友情の輪のひろがりと未来の祈りを籠めて、夢あふれる生命の高揚と賀茂台地の朝を、高らかに謳いあげたものです。

ここで広島県在住の 3 人(河内、黒小、妹尾)と、次に、広島空港で関東・関西方面からの 3 人(乙咩、野村、藤原)と合流し、今年も 8 名で同期会の始まりです。

【6月6日】 せら夢公園自然観察園 → せらワイナリー(昼食) →  
竹原市町並み保存地区 → 小芝島(ハート島) →  
コンクリート船武智丸 → 野呂高原ロッジ

### せら夢公園自然観察園

「ヒョウモンモドキ」の生息環境としては湿地と草地の両方が必要とのことで



です。せら夢公園自然観察園は世羅台地に位置しており、世羅台地は全国的にみても、天然の湿地などの湿地環境が多い場所であり、チョウが吸蜜するノアザミなどが生える畔や斜面などの草地が整備されているところ

です。「ヒョウモンモドキ」の生活史によると、5月下旬から羽化し、6月に成虫になります。「ヒョウモンモドキ」の保護活動に携わっている河内さんが、管理センターの関係者をお願いして、特別に「ヒョウモンモドキ」の飼育下繁殖の状況を見せていただきました。飼育籠の中では数多くの成虫が飛び交っています。

湿原では、「ハッチョウトンボ」や「モートンイトトンボ」などが、葉に止まっていますが、小さいので良く観察しないとわかりません。その後、空中を飛び交い、また、ノアザミの蜜を吸う「ヒョウモンモドキ」を観察しました。

せらワイナリーで昼食した後、竹原市へ移動です。

### 重要伝統的建造物群保存地区竹原

広島県の重要伝統的建造物群保存地区は、今回訪れる竹原市竹原町と呉市豊町御手洗、そして福山市鞆町、廿日市市宮島町の 4 ヶ所です。

安芸の小京都と呼ばれる竹原市は、かつて製塩業や酒造業で栄えた町です。道の駅だけはらで観光ガイドさんと待ち合わせし、昔ながらの情緒がたっぷり残る町並み保存地区を散策しました。NHK 朝ドラで平成 26 年(2014 年)9 月から放映された「マッサン」の主人公竹鶴政孝の竹鶴酒造も町並み保存地区にあります。NHK 朝ドラ「マッサン」の反響を受け、憧憬の広場に竹鶴政孝と妻リタの銅像が建てられました。



道の駅だけはらへ戻った後、小芝島(ハート島)とコンクリート船武智丸を見学するため移動します。

### 小芝島(ハート島)とコンクリート船武智丸

潮が引いた時に大芝島から見るとハート型に見える島がハート島です。右手のガードレールに小さな案内看板が取り付けられてあり、路上に車をとめて眺めました。

太平洋戦争末期に建造された鉄筋コンクリート製貨物船「武智丸」は軍需物資の輸送を行っていました。戦後、安浦漁港に防波堤がなかったため、払い下げを受け、現在は、右の写真のように防波堤としての役割を担っています。太平洋戦争中、命懸けで貴重な物資を日本に運び続けた徴用船のうち、商船、機帆船、漁船合計 7,240 隻が失われたと言われています。



軍需物資不足により、寺の梵鐘などや火箸にいたるまで国民から半強

制的に供出させていますが、窮余の策で誕生したのがこのコンクリート船です。

【6月7日】 野呂高原ロッジ → かぶと岩展望台・弘法寺 → 松濤園 → 岡村港 →

御手洗町並み保存地区 → レストランあび(昼食) → 古代製塩遺跡 → 海女の藻塩

### かぶと岩展望台・弘法寺

野呂高原ロッジは標高約800mのところにあります。かぶと岩展望台からは、これから訪れる7つの橋で繋がった7つの島のとびしま海道と瀬戸内海が眺望できますが、あいにくの天気ではっきりと見えません。

弘法寺は弘法大師空海が2度登山し、岩屋で修行に専念された地と伝えられている霊山です。本堂からは安浦方面が望まれ、ここから河内さんの自宅のあたりが見えるとのことでした。

### 松濤園

松濤園のある下穂刈町は、江戸時代には朝鮮通信使が12回来日したうち、11回立ち寄ったという古い歴史と伝統をもつ由緒ある町です。松濤園は「旧有川邸」を移築し、国際交流のさきがけとなった朝鮮通信使の豊富な資料を立体的に多彩に展示しています。入館料はJAFの割引があり、呉市民は無料でした。

入館料を支払う時、野呂高原ロッジの部屋の鍵を返却していないことに気付き、宿に電話し夕方返却が終わり、安堵したところです。

### 岡村港から重要伝統的建造物群保存地区御手洗

御手洗町並み保存地区へ行く前に、愛媛県今治市岡村島の岡村港に立ち寄ります。観光ガイドさんとの約束時間が10時30分ですが、すでにその時間が迫っており、あわてて御手洗町並み保存地区へと向かいます。途中、左手海の向こうに御手洗の建造物群が見えています。



御手洗は北前船の往来とともに栄えた港町です。御手洗休憩所で待ち合わせた観光ガイドさんから、御手洗神社、遊亭跡、検番跡、伊能忠敬の測量絵図などの説明を受けながら見て回りました。

野口雨情は、昭和11年8月16日より4日間、ここ御手洗に滞在し、鞆田別邸から月を眺め、或いは船を浮かべるなどして、詩相をこらして

「御手洗ぶし」を作詞しました。観光ガイドさんの母親がその時お世話をしたとのことですが、81歳と思えない美声で2番まで歌ってくれました。左上の写真は「御手洗ぶし」を聞いているところです。

県民の浜に移動し、レストランあびで昼食の後、瀬戸内の美しい砂浜と海に浮かぶ島々を眺めながら、徒歩で古代製塩遺跡・海女の藻塩に向かいます。

### 古代製塩遺跡

がまがり古代製塩遺跡復元展示館は、発掘したままの状態で見学できるよう復元しています。ここでは入館のアンケートに答えて、塩入りの粗品をいただきました。

解散場所をJR呉駅から広駅に変更し、来年元気な姿で再会できることを約束して解散となりました。下見をはじめ準備いただいた河内さん、黒小さん、妹尾さんの、おもてなしの気持ちが強く伝わってきた今回の同期会でした。「ヒョウモンモドキ」や「ハッチョウトンボ」の観察、コンクリート船武智丸、古代製塩遺跡の見学など、貴重な体験をさせていただきました。

特に絶滅の危機にあるチョウ、「ヒョウモンモドキ」を見せていただいたことに感謝します。今後も「ヒョウモンモドキ」保護のため、その環境整備が行われることを願っています。

現在、河内さんは、新たに写真集の出版を計画しているとのこと。以前いただいた右の写真の「トンボの世界へ(自然への誘い)」(2011年7月発行)と「スプリング・エフェメラル(早春の里山を彩る夢さ命)」(2017年7月発行)を再読してみました。



【参考】 「ヒョウモンモドキ」 ヒョウモンモドキ保全地域協議会発行(2018年3月)

(ガイド資料) 竹原まちあるきマップ、松濤園、弘法寺周辺、御手洗

## シジュウカラがやってきた！

山口支部 S52年 経済学部卒 古谷眞之助

家の東側のクロガネモチの木に手製の巣箱を掛けたのは、2021年5月19日のことだった。多分そのうち何らかの小鳥が棲みつてくれるだろうと思っていたのだが、それから3年経過しても一向に小鳥が近づいている気配はなく、例えば巣箱の大きさ、高さ、向きなど何か決定的にまずいことがあるためだろうと、ほぼ諦めていた。

今年春になって、近くの電線上で聞き慣れない鳥がしきりに鳴くので調べてみたら、それがシジュウカラだった。そのシジュウカラが頻繁



に巣箱に近づいてあちこちチェックしているのを見て、これはもしかしてもしかするかも、と大いに期待した。そして、2024年4月9日の夕刻5時過ぎ、巣箱に入っていくのをこの目で見た。苦節3年、ついにいった！！4月11日に家内も確認して、もう間違いない。ここに掲げた写真が撮れたのが4月12日である。この日はヒヨドリやモズもこの近くに来て、シジュウカラは近くの電線で、警戒しているのだろう、激しく鳴いていた。このままここで営巣活動を始めてくれるだろうか。祈るような気持だった。

しかし、それは全くの杞憂に終わった。それから2週間後の4月25日午前10時過ぎ、巣箱あたりが何とも騒がしいので2階のベランダからこっそり覗いてみると、何とそれが巣立ちの瞬間だった。後でネット検索してみると、シジュウカラの抱卵期間は約2週間、孵化してからやはり2週間で巣立つとあるから、実は初めて目撃した時にはすでに抱卵期を終えて孵化していたことになる。それにしても巣箱からはピーチクパーチクというヒナの鳴き声は聞こえなかったと思うから、巣箱の中では静かにしていたのだろうか。

ともかく25日の10時過ぎに親鳥が先に巣箱から出て、庭の一番大きいクロガネモチの枝に止まって、子供たちを促すように甲高く鳴いた。その誘いに促されて1羽が巣箱の丸い穴から顔を出し、きょろきょろと外を確認したかと思うと一気に飛び出て、親鳥の許へ飛んだ。続いて2羽目も飛び出た。それで終わりか



と思ったら、しばらくして3羽目が丸穴から顔を出したが、なかなか出てこない。親鳥が巣立ちを促すように強く鳴くと3羽目もやっと飛び出した。子供はこの3羽だった。親たちが近くの山の方に飛んでいくと、3羽もそれを追いかけて飛んで行ってしまった。

3年目にして初めて営巣してくれたシジュウカラ。しかも、その巣立ちまで目撃することが出来たのは奇跡に近いのではないかと勝手に思っている。左の写真が勝手に西洋ガーデンと名付けている手作りの庭である。周囲の樹木は雑木ばかりだが、右手にあるのがクロガネモチに括り付けた巣箱である。周囲は庭の背景としては申し分ない。この庭は、もともと単なる荒地だった場所に枕木を並べて、そこに新たな土を入れて作り上げたガーデン。家の南側は古風な日本庭園なので、東側は雰囲気を変えてみたかったのである。手前の白いエリアはドラム缶を半分に切ったBBQセットを設置して帰省した孫たちと遊ぶエリア。ともあれ、花が咲いて小鳥が鳴けば楽しいことこの上ない。

以上

## 健康維持の取組み（と、半生を振り返って・・・）

九州支部 S59年 農学部卒 大田 剛

OB となって 40 年目を迎える今年、初めて OB 通信に寄稿します（たぶん）大田と申します。宜しくお  
願い致します。

鳳翔会との久しぶりのお付き合いを再開したのは昨年のものでした。還暦をとうに過ぎ、同期の岡田君  
と久々に参加した昨年 10 月の京都での OB 総会で 当時の九州支部支部長の龍さんに声を掛けられまして  
その後の鳳翔会九州支部行事に顔を出させて頂くようになりました。

今年より支部長となられました堀さんは私が現役 1 年生の時の主将でもあり、現役当時の先輩や同期、  
後輩、そして初めてお会いする大先輩方と共に会食や山行にご一緒させて頂く機会も何度かありましたが  
旧知の方々に於いては「自分もそうだが さすがに何十年も経つと皆さん風貌変わるなー、でも性格は変わ  
ってないかもなー。」と思ったりしながらお陰様で楽しく過ごさせて頂いております・・・。

このような紙面に投稿する機会は今までほとんど無く、ふと そういえば現役時代に「あるきの記」に  
北方見聞録なる見出しで当時の北海道合宿の感想を書いた事がある事を思い出して 山口大学ワンダーフォ  
ーゲル部の HP から当時の「あるきの記」の私の投稿文を見つけ出してその他も含めて読み返しましたが、  
そこには懐かしい面々が書かれた文章や当時の皆さんの写真があり、一瞬だけ 40 年以上前にタイムスリッ  
プする事が出来ました・・・。

さて、本題の私の「健康維持の取組み」の件ですが 最近の私の経験を基にした話で、どこまで参考に  
なるかはわかりませんがご紹介させて頂きます。

簡単に言うと糖尿病がほぼ治りました。➡ 痩せました。➡ なぜ?? 肉体労働の仕事を始めました。

大学を卒業して 30 余年製薬メーカーに勤務し ほぼ営業みたいな仕事で接待（ゴルフよりも飲食の方）も  
多く、その後も医薬品の市販後調査等の仕事に従事したり辞めてフリーでいたりしまして、どちらかとい  
うと不摂生を続けてきた数十年を過ごしてきて 若い時は良いのですがやはり年をかさねると代謝も悪くなり  
体重も増えて ご経験の向きも多いと思いますが私も例にもれず所謂生活習慣病なるものが出てきました。  
ここ数年 血圧が少し高く、糖尿病も境界域位で血液検査の色々な数値がイエローゾーン位まできました。

一昨年ですが、なぜか「副甲状腺機能亢進症」なる疾患も発見？されまして喉を切る手術をして治りまし  
たが これのせいもあってか、糖尿病が悪化しまして HbA1c（ヘモグロビン A1c）値が 8.3 まで上がり  
ました。

術後経過観察の為、2 か月に一度 病院で血液検査等を実施していますが なんと、この HbA1c 値が 今年  
4 月から始めた物流センターでの仕分け（荷物運び）のパート仕事開始後 2 か月で 6.8 まで下がりました。

（検査値の性質上 現時点ではもっと下がっていると思います。） もう少しで正常値といったところです。

これは結果論になりますが、今のこの力仕事（肉体労働）を始める前はフリー（無職）期間で人生最大の  
体重となり 1 種類の糖尿病治療薬と時々通うジムではあまり効果がなかった為、治療方針変更をとって  
いた所が、このわずか 2 か月で体重が 10K g 減となり筋肉も明らかについてきた事で糖尿病をはじめ、  
血圧や高脂血症の数値も格段に良くなりました。

年金生活までにはもう少し時間があり、この年で新しい資格を取っての仕事人生も無理があるかなと  
試しに初めた 1 日 5 時間 週 5 日の今までに経験のない身体を使う仕事で、確かにきつい仕事ではありま  
すが 考えようによってはお金を使ってジムに通って身体をいじめるよりは？お金をもらって、かつ身体が  
健康になるのであれば これからの長い人生の為に肉体改造に役立つのであれば、これからも頑張ってい  
こうかなという気持ちが今は芽生えています。

今後の期待としてはもう少し痩せて（大人になっての人生最小の体重はワングルの現役時代ですが。）  
筋肉がついた身体に肉体改造して、年金暮らしになれば 長らくご無沙汰している日本アルプスや 100 名  
山クラスの山に登って一、健康で長生きの幸せな人生を！！という所でしょうか。

大学卒業後、就職して結婚して長女、長男が生まれ 幸せだった数年の後は 病気がちの妻の面倒を見な  
がら仕事にあけくれ、子育ても家のことも全部やってきた半生ですが、いよいよこれからは自分の人生を謳  
歌する為にも健康でありたいと願いつつ 鳳凰会とのお付き合いを広げていきたいと思っている今日この頃  
です。

—以上です。—



## 7. OB の皆さまへのお願い

### (1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意ください。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

#### 【OB会費の納入状況についての問い合わせ先】

次頁・会長宛お問い合わせ下さい。

会費有効年に応じて、鳳翔会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア 新規加入の皆さま及びOB会費未納のため2023年までに会員資格を喪失された皆さま

鳳翔会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票

新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長宛てメールにてご連絡ください。

#### 【送付先】

郵便番号753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内  
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

イ 会費有効年が2024年の皆さま

会費納入について(お願い)、郵便局払込取扱票

口座記号番号 01530-0-16050

加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部鳳翔会

個人会員年会費 2,000円(夫婦会員年会費 3,000円)

※年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振込金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いいたします。

新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱い致します。

### (2) OB通信の送付について

OB通信は本来会員の皆さまだけに送付することになっています。

### (3) OB通信・鳳翔会HPへの寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。掲載を希望される場合は、会長宛原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおり願います。鳳翔会HPは随時受付ます。なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長までお寄せ下さい。

### (4) 転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長までご連絡願います。

同期世話人の方には同期の方の住所変更の連絡をお願いしています。同期世話人の一部の方でメールが不通となっています。メールアドレスの変更がありましたら同様に会長までご連絡ください。

## 8. 2024年 本部・支部役員連絡先

### 【本部】

#### ・鳳翔会会長

田村 伊正（工・昭和53年卒）  
〒758-00525 山口県萩市土原63-3  
携帯 090-3177-3876（家電0838-25-5775）  
E-mail tamurako@kyouwagrp.jp

#### ・鳳翔会副会長

三國 彰（工・昭和55年卒）  
田原 宏（工・昭和57年卒）

#### ・鳳翔会幹事

田中 秀平（農・昭和47年卒） 石川 忠（教・昭和49年卒）  
古谷 眞之助（経・昭和52年卒） 坂田 信一（理・昭和57年卒）  
浅野 哲郎（工・昭和61年卒） 齊藤 昌彦（農・昭和60年卒）兼会計担当

#### ・鳳翔会事務局長

木村 幸誠（経済学部・3回生）  
連絡先〒753-0841 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内ワンダーフォーゲル部

#### ・鳳翔会会計監査

平野 展康（経済・昭和59年卒） 日野 耕二（経済・昭和58年卒）

### 【東京支部】

支部長 城戸 賢嗣（経・昭和49年卒）  
副支部長 高田 哲生（工・昭和49年卒）  
事務局長 秋山 高弘（経・昭和53年卒）

### 【関西支部】

支部長 池田 純（工・昭和51年卒）

### 【山口支部】

支部長 坂田 信一（理・昭和57年卒）  
支部幹事 平野 展康（経・昭和59年卒）  
支部幹事 川地 翔子（農・平成26年卒）

### 【九州支部】

名誉支部長 永沼 嗣朗（経・昭和39年卒）  
支部長 堀 剛（経・昭和57年卒）  
事務局長 天野 雅紀（経・昭和61年卒）

【編集後記】 2024年は各支部ともコロナ前に戻って活動されており、現役生も夏合宿に向けて準備が着々と進んでいます。また、今回もたくさんの原稿を投稿していただきましてありがとうございました。

編集長 田原 宏

